

CBC ラジオ市長インタビュー

平成25年6月25日（火）に市長へのラジオインタビューの収録が行われ、長久手市のまちづくりや現代社会に対する思いを語りました。

6月29日（土）午前10時30分からCBCラジオ「広瀬隆のラジオでいこう」の1コーナー「環境探検隊」で約8分間配信されました。

－ 東洋経済が発表した「すみよさランキング2013」で、長久手市は全国812の市区で6位、快適度に至っては全国1位であったが、この点についてどのように感じるか？

「長久手には、鉄道、学生、4つの大学、病院、約40もの診療所、モリコロパークのような大きな公園などなど、インフラを中心にありとあらゆるものがそろっている。」

－ そんなインフラが整った長久手市を市長としてどのようなまちにしていきたいと考えているのか？

「今は5万人のまちだが、ついこの間までは1万人しかいなかった。一気に人口が増えたため、隣近所は他人同士で声掛けも少ない。だから孤立死や虐待が起こる。長久手にはすべてそろっているので、あとは声掛けし合うまちにすることが一番大事。これは日本全体の問題かもしれない。」

－ 3つのスローガンとして、つながり、安心、みどりを掲げているが、その意図するところは？

「1つ目の「つながり」は、子どもからお年寄りまで一人ひとりが必要とされ大切にされることで、だれもが役割と居場所があるまちまちにしたいという思い。」

「2つ目の「あんしん」は、法律や制度で助けられない人は、地域が一体となってどんなことをしても助けていくという思い。」

「3つ目の「みどり」は、土地区画整理事業で快適な住まいを得た代わりに、山を削り、木を倒して、子どもの遊び場やカエル・トンボの棲みかを失くしてしまった。これからは、道路や学校、川などに木を植え、まちの中に森を再生し、失った緑を取り戻したいという思い。」

－ 市長は「幸福度の高いまち＝日本一の福祉のまち」を目指しているが、一人ひとりの幸福度は数字で表すことが難しいのでは？

「これまでは、数字に表れないことはすべて切り捨てられてきた。これからは、数字では簡単に表すことができないことを住民に投げかけ、「一緒にやろう！考えよう！」ということで、今年度から新しい物差しを一緒につくるために予算化した。」

「日本全体では人口がピークを迎え、2050年には9,000万人になる。つまりこ

れからは頂上から下りていく時代であり、下りていく道は 360 度あるため、どこに向かえばよいか分からない。だから、幸福度、みどり、防犯防災、地域拠点など、色々なツールで住民と一緒に考えて行動していくトレーニングをしている。」

－ 住民と一緒に考えていく単位をどのように考えているか？

「小学校区でやっていきたい。顔が見える範囲で何が幸せかを考えていきたい。」

－ 新聞で大きく報道された「幸せリーグ」に参加して何を感じたか？

「約 1,800 の自治体のうち、52 の市区町村が参加した。最も大きな自治体は人口約 40 万人の豊田市、最も小さなまちは徳島県上勝町で約 1,800 人。豊かな都市もあれば貧しいところもあり、多種多様でとても良いこと。これからは実務者が中心になって交流していくので、良い関係を築いてほしい。」

－ 市長になって約 2 年たち、7 月から組織を変えるそうだが？

「この 2 年間色々勉強してきたが、いよいよ組織と人員配置を大幅に見直した。役所に入って一番驚いたのは、「役人仕事」という言葉が昔からあり、「縄張り」「前例踏襲」「現状維持」を大切にしているということ。これからはそうではなく、職員には現場へ出向いて課題を見つけ、国内外の参考になりそうなところを視察して解決のヒントを見つけるよう言っている。組織も人事も、これまでの発想を転換する良い機会と思い、実行した。」

－ 毎日歩いて登庁しているようだが？

「市長業になりたてで、長久手に住む 5 万人全員のありようを知って勉強するために就任の日から歩いている。毎日色々な人に会い、あいさつしていると色々な課題が見つかる。去年の 6 月から役所の玄関でも職員にあいさつしているが、毎日顔を見て声を聴くと職員がどんな状況なのかが良く分かる。これからも続けていく。」

－ ありがとうございます。前回は市長になる前にインタビューしましたが、全然お変わらない姿を拝見できてうれしかったです。これからも取材を続けていきたいと思います。本日はありがとうございました。